

## つくしとスギナは同じ植物？

畦や草地の明るいところに、薄茶色のつくしが次々とのびてくると、春の訪れを感じます。つくしが大きくなった後に、明るい緑色で柔らかな枝がよく分かれた姿のスギナがのびてきます。色も姿も全く違うように見えるつくしとスギナですが、実は同じ植物だというのはご存知でしょうか？

一般的につくしと呼ばれているのは、スギナの繁殖を担当する部分です。スギナはトクサ科でシダの仲間です。つくしは地下にのびる茎でスギナとつながっているのです。シダ植物は花が咲かず種子を作らないので、胞子で仲間を増やします。つくしの頭の部分は、



よく見るとハチの巣状に割れ目があり、この割れ目が徐々に開いて胞子が飛ぶようになります。胞子が地面に落ちると、まずは前葉体(ぜんようたい)になります。前葉体には雄と雌の器官があるので、そこで初めて受精に至り、次の世代となるスギナの体が成長するのです。このころには胞子を出して役目を終えたつくしは枯れてしまいます。



胞子を作る部分を持つこと、前葉体というステップを踏んで受精することは他のシダ植物にも共通しています。葉があるシダは、葉の裏側やふちに胞子を作る部分を持ち、それがシダの種類を見分けるときのポイントにもなります。

(本橋)